

## 庁議記録

日 時 令和3年11月24日(水)

13:00～13:11

場 所 テレビ会議室

### 【浦本副知事】

お疲れ様でございます。ただいまから庁議を開催いたします。それでは早速議事に入りたいと思います。本日の協議事項といたしましては、2件でございます。初めに「令和4年度重点政策の展開方針について」、続いて「令和4年度予算の編成方針について」、この2件を、総合政策部次長、それから総務部長から順次説明をお願いいたします。

### 【総合政策部次長】

それでは、「令和4年度重点政策の展開方針（案）」についてご説明をいたします。資料の1をご覧ください。最初に「政策検討の基本的な考え方」についてであります。来年度の政策検討にあたっては、あらゆる政策手段をもって感染拡大の抑制に取り組み、道民の命と暮らしを守るといった「守り」の視点。また、ウィズコロナのもとでの社会経済活動の再開を踏まえた需要の取り込みによる経済再生を図るとともに、生活様式の変容や、気候変動リスクの顕在化、未来技術の進展などを的確に捉えまして、ポストコロナを見据えて、本道の「強み」を生かした、先進的な取組に挑戦するなど、「攻め」の視点から、道が自らフロントランナーとして、道民にわかりやすく実感が得られるような形で政策を進めていくこと、さらにはこうした取組により、本道の成長を実現し、我が国の安全保障や持続的な発展にもつなげていくということをお示ししております。

次にその右側の「政策検討の視点」についてでございますが、「守り」の視点として、感染症などの脅威から「道民の命と暮らし」を守るため、感染症への対策に万全を期すということとともに、暮らしや経済における影響を最小限に食い止め、安全安心な地域社会の形成につなげていくということ。また、「攻め」の視点といたしまして、急速な社会環境の変化を捉えて、本道が有する魅力ある資源に加えて、これまでハンディとされてきたことを新たな「強み」として活用しながら、ポストコロナを見据えた先進的な取組に挑戦し、地域の活性化とともに本道の成長につなげていくということをお示ししております。次にその下の「政策検討の具体的方向性」についてでございますが、「基本的な考え方」と「政策検討の視点」を踏まえまして、まず「守り」の視点として、ワクチン接種や感染防止の徹底など予防対策の推進など、四つの政策の方向性を例示しております。また、「攻め」の視点といたしまして、コロナ禍からの経済再生に向けた地域産業の活性化など、ウィズコロナを踏まえて、従来の施策を見直しつつ、加速する四つの政策のほか、「ゼロカーボン北海道」や「北海道society5.0」の実現に向けた取組の推進など、将来を見据えて、今から取り組むべき施策を先取りする政策の方向性を提示してございます。

最後に、資料の一番下でございますが、「政策検討にあたっての留意事項」を整理しております。今後、この方針のもと、全庁における政策検討を本格化していくこととしておりますので、各部・振興局の引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

## 【総務部長】

それでは続きまして、私の方から資料2-1概要に基づきまして、「令和4年度予算編成方針の概要」についてご説明したいと思います。なお、資料に付いております資料の2-2本体につきましては後ほどご覧いただきたいと思います。まず道財政につきましては、来年度以降も収支不足額が生じる見込みであるほか、感染症対策やポストコロナといった道政課題への対応が欠かせない状況にあるなど、当面の財政運営はなお厳しいものになるものと見込んでいるところでございます。そこで令和4年度予算につきましては、ポイントのところでございますが、「今後の財政運営の基本方針【方向性】」に沿って施策や事務事業の徹底した精査、ゼロベースでの見直し、さらには、既存事業の再構築やスクラップアンドビルドなど歳出の「量的な削減」と「質の一層の向上」に取り組むということ、そして新北海道スタイルの実践に伴う、事務的経費の見直しを徹底した上で、先ほど総合政策部から説明がございました「令和4年度重点政策の展開方針」に基づく、優先度の高い施策に限りある行財政資源を効果的、効率的に配分することとしております。

また、主な取組のところでございますが、今年度は各部局におけます主体的な事業の見直しなどを促していくということもあり、昨年度までと比べまして、インセンティブの割合を増やしております。具体的には、「スクラップアンドビルド促進枠」につきましては、削減額の2倍まで要求が可能ということにしておりますし、また新たな民間資金獲得につきましては、その半分50%を各部局の配分額に上乘せするという形で見直しをしておりますので、ぜひ積極的な活用をお願いしたいと思っております。なお来年度から「スマート道庁」の取組の一つといたしまして、4月以降、1人1台スマホが配られるということで、勤務環境も大きく変わるところでございます。仕事の進め方も大きく変えていくことが求められるところでございますので、そういったことも踏まえまして、各部局におきましては、改めて、全ての事業におきまして、実施方法等の見直しの徹底をお願いしたいと思っております。

最後、右下のところ編成日程でございますけれども、本日庁議終了後、各部に編成方針を通知し、2月上旬の知事査定まで予算編成を進めていくこととなります。各部局におきましては、すでに様々作業を行っていただいているところではございますけれども、今後作業が本格化していく中で、引き続き限られた期間での事務が円滑に進むようご協力をお願いいたします。以上でございます。

## 【浦本副知事】

それぞれ、ご説明ありがとうございました。それではこの2件に関しまして、何かご発言等ございますでしょうか。よろしいですか。それではこの2件につきましては、案の通り決定をいたします。それでは最後に知事からコメントをお願いいたします。

## 【鈴木知事】

来年度に向けた「重点政策の展開方針」と「予算編成方針」について本日、決定をいたしました。これを機に政策の具体化に向けた検討を加速してまいります。検討にあたっては引き続き、「道民の皆様との暮らし」を守るため、感染症対策に万全を尽くすこととともに、ポストコロナを見据えた「本道の強み」を最大限活用した先進的な取組に挑戦をし、道が自らフロントランナーとなり、道民の皆様にわかりやすく実感が得られるような形で、政策を進めてまいりたいと考えております。具体的政策検討を進めていただくようお願いいたします。

また、職員一人一人が課題にしっかりと向き合って、地域と一体となって取り組みを進めていく、このことが重要であります。道が有するデータ、ノウハウ、施設、様々な財産を最大限活用して、各部・振興局が十分に連携をしながら、施策や事務事業の「量的な削減」とあわせて「質の一層の向上」こちらにも取り組んでいただきたいと思います。そして、先ほど説明をさせていただいた予算編成方針、こちらにおいても、「スクラップアンドビルド促進枠」ということで、こちらは1.5倍を2倍に、そして「民間資金獲得に対するインセンティブ」これを50%ということ、さらに強化したところであります。既存施策の徹底した精査、そして実施方法などのゼロベースでの見直し、民間資金の獲得、こういったことなど、本道においては厳しい財政状況であるわけではありますが、各部長のリーダーシップによって、あらゆる手法を十分に検討していただいて、施策間の連携、そして、各部横断的な事業を推進することによって、必要な施策が展開できるようにお願いをいたします。

そして最後になりますけれども、令和4年度から、先ほども説明がありましたけど18,000台、すべての職員にスマホが配られます。またノートPCと連動して、いつでもどこでも、仕事ができるという状況になります。「スマート道庁」この取組が本格的にスタートするという状況になります。すでに、様々ご検討いただいているところでもありますけれども、当然体制が変わるわけですので、オンライン会議などの積極的な活用などを通じて、コロナ前の行動様式で必要のあった経費など、こういったものについては特にゼロベースで見直しをしていただきたいと思います。この点について、環境も大きく変わりますので、皆さんも、すでに様々お考えいただいていることと思いますけれども、私もしっかりと、その点確認をさせていただきたいと思っていますので、この点、特に皆さん意識をして編成していただきたいと思います。私からは以上です。

#### **【浦本副知事】**

ありがとうございました。ただいま知事から指示のありました事項を十分に踏まえて、来年度の重点政策の組み立て、そして予算編成に向けて、各部局、各振興局で対応いただきますようお願いを申し上げます。以上で、本日の庁議を終了いたします。お疲れ様でした。